

令和 8 年度 第 2 回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 令和 8 年 8 月 24 日(月)10:00

2. 出席状況 委 員 10 名(川染会長、伊澤委員、井上委員、岩下委員、大垣委員、
加藤委員、泉水委員、常盤委員、前田委員、三好委員)
事務局 6 名(健幸・スポーツ部長、文化振興課長、文化振興係 4 名)

3. 傍 聴 人 傍聴人 なし

4. 議 題

1 開会

2 審議会の役割について

3 会長、職務代理者の選出

4 報告事項

(1)文化芸術活動支援補助金およびやまと芸術文化ホール開放事業(舞台の部)の選考結果について

5 審議事項

(1)文化芸術の振興のための顕彰事案について

6 その他

7 閉会

5. 会議資料

資料1-1 文化芸術振興審議会について

資料1-2 審議会の公開等

資料 2 文化芸術活動支援補助金選考結果報告資料

資料3 令和 8 年度文化芸術顕彰候補

【会議要旨】

1 開会

2 会長、職務代理者の選出

○委員の互選により、会長に川染委員が選出され、職務代理者に泉水委員が指名された。

3 審議会の役割について

○市から、「大和市文化芸術振興審議会について」を説明。委員名の公表、会議の公開、傍聴などについて確認した。

○会議録については、要点を取りまとめ、公開することが確認された。

4 報告事項

(1)文化芸術活動支援補助金およびやまと芸術文化ホール開放事業(舞台の部)の選考結果について

○市から、「文化芸術活動支援補助金およびやまと芸術文化ホール開放事業(舞台の部)の選考結果について」を説明。

【意見交換】

- 委員 文化芸術活動支援補助金について、昨年の応募件数はどの程度であったか。
- 事務局 昨年は4件の募集で4件の内定であった。今年は5件の募集で5件の内定である。
- 委員 舞台の部の応募数はどの程度であったか。一昨年や昨年は複数の募集があったと記憶している。この事業を開始して3年目で募集が1件というのは少ないのではないか。募集の段階で手を打たないと、このまま応募が先細りになるのはもったいない。主催者を経験した感想としては、1,000席を埋められる公演内容の検討だけでなく、広報PRの方法についても課題がある。市としてどのような支援ができるのか、例えば市のSNS(X、LINE)の配信やART100冊子の掲載で広報を行うことなどのメリットを提示することで、応募のハードルを下げるができると思う。
- 事務局 1,000席を埋める公演内容を企画し、集客を行えるような大きな団体は市内には少ない。単体ではなく合同で実施することも視野に入れて募集を行う。金銭的なメリットを全面にアピールしていたが、広報なども含めたさまざまなメリットを提示することを検討する。
- 委員 市の支援内容は募集要項に記載されていないのか。
- 事務局 明記はしているが、より具体的に(XやLINE、ART100など)記載することを検討する。
- 委員 15年前に文化連盟がなくなった。年間45,000円の補助が0円になった。近隣で文化連盟がないのは大和市のみである。他の地域では年間で10万円の補助があるところが多い。団体としても金銭的に厳しい状況である。会の人数も減少し、物価高などが重なっている。
- ギャラリーのスペースが少し窮屈である。子どもを対象にした生け花体験や名前当てラリーなどを行っているが、観覧者は増えていない。
- 大和市文化芸術連合会の現在の所属団体数は何団体か。
- 事務局 52団体である。
- 委員 実施された団体のフィードバックや実績などから各団体の集客方法を考えるべきである。事務局側でフィードバックや実績を集めているのか。
- 事務局 補助金には2種類あると考えている。団体に対する補助金と事業に対する補助金である。現在はさまざまなところで団体に関する補助金は減少している。大和市では、事業に対する補助金を出している。
- 事業の実績報告は団体から提出していただいているが、団体の振り返りとしての側面が大きい。舞台の部は厳正な選考を経て市の看板事業を実施してもらうものである。応募団体が減少している点については検討していく必要がある。しかし、各団体としては席を埋めることや、県や市の補助金を活用しても大きな金額がかかることがボトルネックとなっている。複数団体での実施や他の補助金の活用などを検討している。
- 委員 令和9年度のやまと国際オペラ協会の事業は決定しているのか。
- 事務局 決定している。元々、11月23日に実施する予定で募集をかけている。

3 その他

(1)文化芸術顕彰候補者について

○市から、「文化芸術顕彰候補者について」を説明。

— 大和市情報公開条例第7条第3号に該当するため非公開 —

4 閉会